

狂 犬 病



- ・ 狂犬病は、狂犬病ウイルスによる感染症です。人は、感染動物(アジアでは主として犬)に咬まれることによって唾液からウイルスに感染し、長い潜伏期の後に発症します。**発症してしまうと有効な治療法はなく、ほぼ100%死亡します。**世界における死者数は毎年5万5千人といわれています。感染した犬に咬まれても、**直ちに狂犬病ワクチンを接種することにより発症を防げます。**
- ・ 我が国では、2006年にフィリピンで犬に咬まれ帰国後に狂犬病を発症し、死亡した事例が2人報告されています。

狂犬病は予防できる感染症です。狂犬病流行地で犬などの動物に咬まれたら、すぐに傷口を石けんと水でよく洗い、できるだけ早く現地の医療機関を受診し、傷口の消毒や狂犬病ワクチンの接種を受けましょう。感染の恐れがある場合は帰国時に検疫所にご相談下さい。

○発生地域:

世界のほとんどの地域。特にアジア、アフリカ。(発生がない地域は、英国、北欧の一部、豪州、台湾、ハワイ、グアムなど)

○感染要因:

動物(アジアでは特に犬)から咬まれること。アジアでの発生はないが、アメリカ大陸ではコウモリにも狂犬病の流行がみられ、狂犬病ウイルスに感染したコウモリに咬まれて死亡する事例が報告されている。

○主な症状:

通常、1～3か月の潜伏期間ののち、発熱、咬まれた場所の知覚異常が現れる。恐水、恐風症状などの特徴的な症状の他に、神経症状(不安発作、嚥下困難(飲食物が飲み込みにくくなる)、けいれん)が見られる。

○感染予防:

犬等(猫、野生動物を含む。特に飼い主のわからない動物。)との接触を避ける。もし犬等に咬まれた場合は、傷口を石けんと水でよく洗い、速やかに医療機関を受診し、消毒、暴露後予防ワクチンの接種を受ける。渡航地で動物と頻繁に接触する場合には、渡航前に狂犬病ワクチン接種を受けておく。

※ 2008年11月には、それまで狂犬病の発生がないとされていたインドネシアのバリ島で犬に狂犬病が発生し、発病した犬にかまれた住民が狂犬病で死亡しています。バリ島での狂犬病流行は継続しており、現在も死亡者が確認されています。

※ 2010年2月に米国ニューヨークのセントラルパークでアライグマの狂犬病が確認されたところから、ニューヨーク市保健衛生局によって報告され、現在、アライグマに狂犬病ワクチンを接種して、犬や猫など、他の動物に広がって人が感染するリスクを減らそうとしています。2010年3月にはネコで本病に感染した事例が1例報告されています。

海外では、動物と距離をとろう。

Please Keep Your Distance

※もっと詳しく知りたい方は

厚生労働省「狂犬病について」

→<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou10/index.html>